

## たかしろやま こうじょうがたけ さぶろうがたけ 高城山 (高城ヶ岳810m) と三郎ヶ岳 (879m) に登る

2月4日(金)。快晴だが、この冬一番の寒気到来とのことで、小アイゼンをリュックのポケットに入れて出発。

### 伊勢本街道沿いの集落・高井

近鉄榛原駅前で曾爾村行きバスに乗って高井で下車。この高井の集落は古くから伊勢本街道沿いの村として知られた所。八木〜桜井〜初瀬〜榛原とのぼってきたお伊勢参りの人々は、ここから宇陀の山間を抜けて伊勢へと歩いたのだ。

### ゆっくりと仏隆寺へ

少しのぼって伊勢本街道と分かれ、坂道をゆっくり歩いて8:40 仏隆寺の駐車場に到着。仏隆寺は嘉祥3年(850年)創建の古刹。趣のある石段、桜の古木、秋のヒガンバナなどで知られているが、この日は帰りのバスの時刻が気かりなので、スルーさせてもらう。

### うっすらと積もった雪を踏んで

ここから南へ曲折しながら山腹を縫う道を、西側の景観を眺めながら歩く。音羽三山が特徴ある姿で横たわっている。

9:20 高城山登山口で東に折れ、林の中の登山道にはいる。シャリ、シャリ、分厚く積もった枯葉を霜柱ごと踏んで歩く。

登山道はうっすらと雪に被われているが、滑るほどのことはなく、その雪の上に靴跡がついている。前日のものか。



↑高城山付近から見た音羽三山(おとわさんざん)



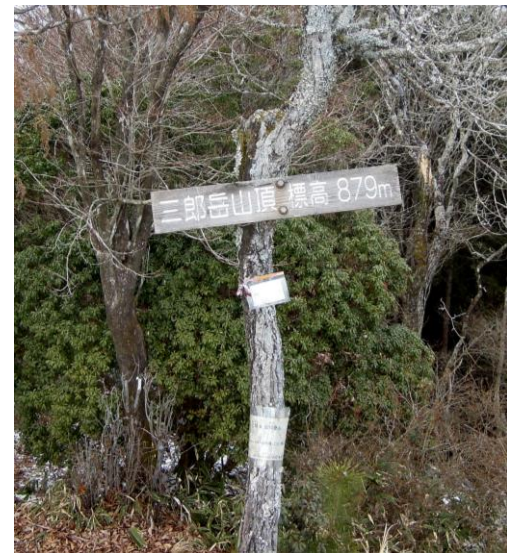
↑高城山山頂

山城の跡=高城山頂上

時にくさりにすがりながら急登を登り10:00 高城山山頂に。標高810m。ここは細長い平たい尾根で、かつては山城が構えられていたと言う。あずまやで休憩し、四囲の山々を楽しむ。

### いくつかのピークを越えて三郎ヶ岳へ

尾根筋の縦走路が、さらに東にのびており、いくつかのピークを越えていく。あまりいい道ではないが、雪の上の靴跡を辿るので、迷うことはない。各所でイワカガミの葉が光っており、路傍のアセビはまだ花芽を膨らませていない。ここも最後の急登は所々にくさが設けられている。11:20 三郎ヶ岳頂上着。標高879m。



### 山名の由来は？

三郎ヶ岳の名の由来は、室生〜曾爾にかけての3つの山を兄弟に見立てての事だったと記憶している。この山から東に見える住塚山が次郎ヶ岳と地図にも出ているが、では太郎は国見ヶ岳だったか



どうかはどうしても思い出せない。

### 険しい坂道を下って伊勢本街道へ

三郎ヶ岳からは険しい坂道を下る。くさりにつかまり、慎重に降りて、左上に摩崖仏を見たら、まもなく建物(明開寺宿坊跡)があり、道が左右に分かれている。右に下って伊勢本街道に出る。街道をゆっくり下り、13:00 諸木野の集落に着く。

### 関所があった「諸木野宿」

ここは、かつての「諸木野宿」で近世には関所が設けられ、旅籠が軒を並べていたとの事。今でも風格を感じさせる民家が見受



↑ 伊勢本街道の道標

けられる。

関所跡地のあずまやで休憩し、高井バス停に向けて歩き出す。

### 遠かったバス停までの道

バスの時刻が気になり、休みなく歩いたが、疲れていたのか、この道が長く感じられた。

やっとの思いでバス停に着いたが、バスは出た後で、思わず座り込んでしまった。

← 諸木野関所跡地



## 続・続・二上山に咲く花々 28

### ナナミノキ (七実の木) モチノキ科モチノキ属

和名の由来には諸説あり。実がやや楕円球形なので「ナガミノキ」と呼ばれていたのが、訛って今の名に、との説が納得できそうです。別名の「ナナメノキ」も実の形に由来するとの事。

山中にも自生しますが、鳥谷口古墳裏からの登山道入口で毎年、枝もたわわに赤い実をたくさん実らせますが、今年1月末にはすっかり無くなっていました。小鳥に食べられたのでしょうか。

花期は6月～7月。小さいながらも可愛らしい。雌雄異株。

材は固く、印鑑や櫛の材料。

樹皮をむいて、トリモチをつくれるらしいが、私の幼少時代はもっぱらモチノキを用いていました。最終段階で、苦いのを我慢しながら、粘度を強めるために、噛み続けたのを思い出します。

